

邑知っ子

第26回運動会9月24日(木)を終えて



例年社会体育大会と同日開催で5月の第三日曜日に実施してきた運動会です。今年度は、延期を決定した4月から当日に至るまでに様々なことを、職員で話し合ってきました。その間、保護者の皆様のご理解が学校の支えになって進めることができました。休業中の家庭での鼓笛練習、7月と9月の奉仕作業での環境面、そして、日々の健康管理のお陰で、児童123名全員参加で、感動的に運動会を終えることができました。

前日まで台風12号の影響で不安定だった天候も当日は児童の見方になり、過ごしやすい状態になりました。当日、保護者の皆様にはマスク着用を含め感染予防に気を付けて最後まで応援してください、誠にありがとうございました。来賓、保護者の方に来校いただき、運動会が実施できることが大変喜ばしいことで感動的なことなのだと知らされた次第です。

大人は、今、元に戻ることを願うというよりは新しい視点で過ごしていく覚悟を持つことが重要で、それが前向きに生活することに繋がっているのだと今回の運動会を通して強く感じました。

ただ、全て新しく変更したり、取りやめたりするのではなく創意工夫することが重要なのです。いたるところにちょっとした工夫をすることを児童も習得したのではないのでしょうか。例えば、従来の競技と同じように見える玉入れで、落ちた玉を円の外に出す係を設定し玉を拾いに行く時に密にならないようにしたり、一度に実施する人数を半分にしたりとといったことをしました。また、新しい生活様式での運動会で、良かったことの一つに、途中で怪我の手当てをするような場面が全くなかったことが挙げられます。例年は、数名の児童が擦りむいたりぶつかったり等で軽い手当てをしています。密になるような団体競技を実施しなかったことや常にソーシャルディスタンスを意識して間隔をあけていたお陰か、または、児童の自分の体を守るという健康への意識の高まりの表れかもしれません。運動会終了後に、鼓笛演奏に関して「自分の娘の時代と同じ



曲があつて懐かしかったです。」といった来賓の方の声や「実は、私も校歌やオープニングナンバーの曲弾けます。自分の子供時代のことを思い出しました。」といった保護者の方の声が寄せられました。音楽の授業がなかなか辛い中で鼓笛演奏をどのように披露するかといったことも今回の課題でした。鼓笛演奏はなくしてはいけないそこには伝統の重みがあることを継承していく必要があります。児童の頑張りをこれからも期待しています。

